

# エシカルな文化祭

## —学びの実践のあり方を考える—

### 家庭科分科会

家庭科 葭内 ありさ

#### 1. はじめに

今年度の全国国立大学附属学校連盟高等学校部会教育研究大会では、家庭科分科会が開かれ、各校から家庭科の実践が報告された。家庭科分科会は4年に一度の開催であるため、久々に相互の研究を知る非常に良い機会となった。

#### 2. 発表概要

2017年度の文化祭では、本校で初めての試みとして、全ての企画が何らかのエシカルな要素を盛り込み、全校あげてのエシカル消費を意識した文化祭が行われた。これは、家庭科の「エシカル消費」の授業に端を発するものである。

人権や環境に配慮するエシカル消費は、2015年に採択された国連持続可能な開発目標（SDGs）達成にも必要な具体的な消費行動であり、本校では2011年度より家庭科の題材として取り上げてきた。2014年度よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されてからは、高校2年生「総合的な学習の時間」等に於いても、従来生徒によりエシカル消費に関連させた探究活動が行われてきた。

文化祭では、生徒による多様な創意工夫や試みが見られた。エシカルな文化祭が、どのような生徒の学びに繋がったかを明らかにするために、文化祭での生徒の実践や事後アンケートを、テキストマイニングを用いて計量テキスト分析を行った。

結果からは、文化祭が、家庭科で学んだことの実践の機会となり、生徒の意識や知識・理解の深まりに大きく寄与し、学びの場となったことが伺えた。また、企画を作り上げていく中で、授業で得た知識を遥かに超えた理解を深め、エシカル消費を「自分ごと」とする過程も見られた。さらに、学外に発信することにより、エシカル企画を家族に褒められたことや、メディアに発信され、肯定されたことは、生徒のやりがい、嬉しさや自信に繋がった。

生徒の日々の学校生活の発露の機会である文化祭は、自発性を大切にした教育力を持ち、自然かつ大きな学びの場であったと言える。

生徒の自主性を生かしながらの、教員による補助の最適な形はどのようなものであるか、についての議論は、今後の課題である。

#### 3. おわりに

各校の報告後、活発に質問が行われた。分科会も円滑に行われ、会場校に感謝申し上げる。